

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4077800078		
法人名	有限会社 ほのぼのライフ		
事業所名	グループホーム ほのぼの		
所在地	久留米市城島町江上657-2		
自己評価作成日	令和4年11月30日	評価結果確定日	令和5年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻 4-2-1	TEL:092-589-5680	HP: https://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和4年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

基本理念を基に暮らす方々が、笑顔で安心して暮らして頂けるよう、スタッフも明るく笑顔で温かみのある支援を行うよう心がけています。また、ご家族様に対しても、こまめに連絡をとり近況報告や受診時の報告をすることで安心して頂くことで信頼を保てるよう努めています。現在は指定の場所での面会とし、ご家族と少しでも会える機会を設けています。また、写真や動画を送ることでご家族にホームでの様子をお伝えできるよう心掛けています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲を田畑に囲まれた閑静な住宅地の一角にある「グループホームほのぼの」は家庭的な雰囲気のあるユニット型事業所である。運動が出来るような大きな庭があり、数年前から近くの住民から引き取る形でヤギを飼い始めた。施設のマスコット的な存在になっており、地域住民や子供が立ち寄り交流のきっかけともなっている。職員は明るく笑顔で温かみのある支援を行うよう心がけ、家族とはこまめに連絡を取り近況報告などを行うことで安心、信頼を保てるように努めている。コロナ禍の中、利用者・職員などの体調管理、バイタルチェックなどに充分心を砕き、心地よい生活のリズムを保ち、心穏やかな生活を送っていただけるように力を入れている。今後も地域福祉の拠点として大いに発展が期待される事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)		1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの			○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)		1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)		1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)		1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)		1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		1. ほぼ全ての利用者が				
		○	2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	数年前に職員の意見を取り入れ理念の見直しを行った。月1回のミーティングでは、全職員で唱和することで、共有し生かせる理念となるよう努めている。	外部評価でのアドバイスをきっかけに、職員全員での見直しを行った。以前は長文だったものをキーワードを元に短く馴染みのあるものにした。玄関やパンフレットなどに記載、掲示している。徐々に理念も浸透してきて、一文にある「心に寄り添う気配り」という意識の変化にもつながってきている。	入職時のオリエンテーションなどで、理念についても伝える機会を設け、全社員が理念に周知されている状態になるよう取り組んでも良いのではないだろうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により地域の方と接する機会がなくなったが、数年前より山羊を飼育したことにより、地域の方や保育園から山羊を見にきたりと、ホームを知って頂くきっかけになったと思う。	施設前の庭で数年前からヤギを飼い始め、近所の子供や地域住民が立ち寄ることも増えた。設置される自販機を利用される方も多い。コロナ過で地域交流が減ってきているが、自治会行事の際に職員が手伝いには行っている。コロナ前は地域の小学校に認知症啓もう活動としてキャラバンメイトで活動したり、健康体操を公開したりもしていた。	近隣地域の方や入居者の楽しさを提供するために、庭や設備を利用した移動販売の仕組みができないかアイデアを持っている。社会資源を活用し何らかの形で実現されることにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会が存続した際は、集会の際に呼んで頂き、体操などのレクリエーションをおこなったり、認知症などの相談を受けたりしたりしていたが、老人会がなくなり現在地域貢献できないか模索中である		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内での意見が固定観念とならないよう、外部からの意見やアイデアを求めるようにしている。事故報告やヒヤリ・ハットに関しては、外部の方からの意見を頂くことで、日常化していたことを気付くことのきっかけとなっている。	コロナ過で昨年までは報告形式にしていたが、今年から集合開催に戻し、家族が2、3名、自治会長、市の認知症団体、民生委員などが参加されている。議事録は玄関において閲覧可能にしている。家族へは全員に案内し、一部が参加される。議事と一緒にアンケートを添付し、内容についての意見をもらっている。資料に理念も記載され、行事、ヒヤリハット報告など丁寧に情報を共有している。	参加されていない家族にも運営推進会議の内容が共有されるように、議事録の郵送報告を検討されるのも良いのではないだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所が遠方にあるため、直接あつて相談する機会は少ないが、電話にて柔軟に対応して頂くことで解消できている。	運営推進会議に参加されることもあるが、日ごろ質疑などがある際はメールや電話にて尋ねている、介護申請は支所にて行うが、運営についてのやりとりは本庁で対応してもらおう。同日に身体拘束廃止委員会も開催し、対応についての意見をもらうこともできる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回、身体拘束・虐待について研修を行っている。ホーム内でも身体拘束に当たらない支援を行うよう指導しているが、グレーゾーンと思われる事案が発生した際は、対応に悩むことがある。	身体拘束廃止委員会を組織しており、運営推進会議と合わせて定期開催し状況報告も行う。安全保護のために拘束的な対応が求められるときも代替手段がないか職員で話し合っ拘束ゼロに努めている。出入り口は1か所に限定し開放している。	

R4.12自己・外部評価票(グループホームほのぼの)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束の研修と同様にホーム内での研修を行い、虐待の事例などを用いて虐待が身近にあることを認識し、虐待の芽と思われる事案を職員から聞き取ることができるような関係が気付けるよう努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部での研修がある際は、参加できるような体制をとっている。近年は、外部での研修が減少しているため、自己研修として職員に学んで頂く機会を設けている。	職員ごとに課題を定めてもらい、自己選択として職員各人が権利擁護のテーマを選んだ際に学習する。数年前に制度利用者はいたが、現在はいない。パンフレットや資料なども常備している。昨年は権利擁護の外部研修に参加して伝達も行った。	法定の研修については、事業所全体が共有できるよう、ある程度事業所でコントロールしてもよいのではないだろうか。また、資料回覧だけでなく、口頭報告の形で、スケジュールを組んだ実施がなされても良いと思われる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族と話し合いを行う場を設け、不安や疑問点を汲み取る努力を行っている。又、医療的な説明が必要な際は、主治医に協力して頂き説明して頂くこともある。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価の御家族のアンケートにて、意見や要望を頂くことができています。昨年の外部評価にて、パン食の提案があり、検討しおやつでの提供を始めた。	コロナ前は支払いを現金にして面会を促していたが、今は振込に変えている。家族に対してLINEやSMSによる連絡、お便りによる行事報告などを毎月定期的に行い、日ごろの状態がわかるようコミュニケーションを取っている。コロナ過でも玄関先にて短時間の対面で面会をしてもらい、要望などを聞き取っている。	運営推進会議時に参加者からアンケートにて事前意見聴取をしているが、内容を家族向けにもアレンジすることで満足度や要望把握にも使える形に利用しても良いのではないだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1～2回職員の個人面談を行い、普段言えない悩みや意見を聞き取り、改善点があった際は、改善に努めている。又、職員全体で話し合う内容があった際は、ミーティングにて話し合うよう努めている。	毎月ミーティングを開催しており、代表や管理者からの注意伝達などのほか、利用者のケアの方法や状況の共有をしている。代表、管理者との三者面談の機会もあり、日ごろからも相談しやすい。挙がった意見や要望に対しても聞き取って実現に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況、勤務形態を把握し評価している。また、近年福利個性の見直ししたこともあり、離職率の低下、資格習得意欲がみられるようになった		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用の際は性別、年齢を問わずご本様の意欲や経験を重視し採用に当たっている。在職中の職員に対しても、体調面や育児に配慮した勤務体制を心掛けている。	コロナ禍では個別学習を推進しており、年間で個別にテーマを定めたものに対して情報収集、資料報告の形をとっている。外部研修にも機会があれば参加しており、参加費の補助もある。職員の男女比は2:8程度、年齢層は20～50歳代とここ数年で平均年齢の若年化が進んでいる。休憩スペース、時間も細分化してメリハリをつけた勤務が出来ている。長く勤務する社員も多く定着率も高い。	

R4.12自己・外部評価票(グループホームほのぼの)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修にて人権に対して学ぶ機会を設けたり、ミーティングの際に、身近で人権を無視した行動や言葉があることを職員が理解することで、身体拘束や虐待に繋がらないよう努めている	最近ではケアマネ更新研修の中であった、人権学習を含めた内容伝達を行った。虐待防止や認知症高齢者の理解を含めた内容のものは毎年定期的に研修している。	一般的な人権学習の取組として、動画の活用や、職員も含めたハラスメントの取り組みなど、実務に即した範囲での学習の機会を作っても良いのではないだろうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年1～2回の個別面談の際に、仕事の負担や悩みを聞くよう心掛け、体調面等で負担を感じてある方などは配慮を行っている。又、外部の研修を促したり、コロナ禍により、外部の研修参加が困難な際は自己研修をおこなっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍前は、地域包括センターの協力の元、近隣の同業者と出前講座などで交流の機会があったが、現在中断している状況である。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居し間もない方に対しては、こまめに声を掛けコミュニケーションをとるように努め安心感を持って頂けるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居間もないご家族に不安がないよう、近況の報告や写真をlineにて報告するよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談の際に、ご本人様、ご家族の意向や思いを聞き取り、ご本人様の思いに添えるような暮らしができるよう努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	要介護が高くなり、自身で思うように動けないが、ご本様の意思が聞き取ることが可能な方には、意思を尊重できるような支援を心掛け、意思を伝えることが不可能な方でも、お元気な時の意向を尊重し支援に努めている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護度が高くなった方には、ホームでの支援方法や今後のことについて話し合いの場を持ち、ご家族様の意向を聞き取り、ご本人様に合った支援を検討するようにしている		

R4.12自己・外部評価票(グループホームほのぼの)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍が落ちつき、県外などの、ここ数年面会が出来なかった親類の方や友人の方の面会希望があった際には、面会を許可し、懐かしむ姿がみられた	コロナ禍では出来なかったが、徐々に外出も再開し、受診などの外出時に自宅近郊を通して懐かしんでもらったり、お参りに行事として行くこともある。なかなか面会に来られない方にも電話や手紙などによって関係が途切れないような支援を行う。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の方が主であり、トラブルに繋がるが多々みられることもあり、職員が、入居者一人一人とコミュニケーションを密にとるようにし、孤立しないよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院での治療が必要になった方には、再度入居申し込みができることをお伝えし、申し込みされる方も居られる。また、退去時にはいつでも相談に乗れることをお伝えするよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様に意向を開ける際は聞き取りをおこない、困難な際はご家族の意向や日常生活を踏まえケアプランを作成している	入居時には管理者が訪問してアセスメントを行い、家族からも聞き取りによって生活歴や基本情報を把握する。ケアプランの見直し時にアセスメントの見直しも行っている。意向の把握が難しい方には、日ごろの様子や、以前の暮らしぶりから推測し、反応を見ながら本人本位の取組に繋げている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談の際に聞き取りを行うように努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アイパットを活用し一人一人の状況を記録し、全職員で把握できるよう努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族に近況をお伝えし、ご希望があるか尋ね、ご希望がある際はプランに反映できるようにし、モニタリングについては、担当職員が検討し現場の意見を取り入れるよう努めている。	職員1人が3名程度を担当し、モニタリング等を行う。ケアプランは主に計画作成担当者が作成する。2, 3年前からタブレット型の介護システムに切り替え、実施記録やバイタルなどの記録をクラウドで管理できるようになり時間的な効率化に繋がった。ケアプランの実施についても、全利用者のプランをファイルにまとめて一元化した上でプランを見ながら記録することを徹底し、プラン共有を図っている。見直し時には担当者会議を開催し、家族にも参加してもらっている。	チームケアの取組として、担当者会議の際に医療関係者から聞き取った意見も記録として残してはどうだろうか。

R4.12自己・外部評価票(グループホームほのぼの)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アイパットにケアプランの実施状況を記載し職員間にて情報の共有ができるよう努めている。その内容を元に介護計画の見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の状況や状態の変化に気づいた際は、その時に合った援助方法を話し合い対応するよう努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用には至っていない。今後、地域資源の活用を検討したい。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を尋ね、ご希望に添える時は、かかりつけ医での受診を継続する。入居中で、身体面や体調面での変化があった際は御家族と話し合いを行い、その時に合った医療が提供できるよう支援している	希望されれば入居前からのかかりつけ医を継続できるため、7割方外部のかかりつけ医に通院している。通院介助も基本的には事業所の職員が行うが、家族に立ち会ってもらうこともある。一部の入居者は提携の訪問診療に切り替えることもある。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が出勤の際は、看護師に相談をおこなったり、又かかりつけ医の病院に電話し相談することもある。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、病院のソーシャルワーカーと密に連絡を取り、早期退院へ向けての話しをする機会を設けるよう努めている。又、退院後も相談にのって頂くこともある		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際には、ホームでの医療行為が出来ないことを了承して頂き契約をおこなう。重症化した際は、ご家族と十分に話し合いをおこない、ホームでできる支援や医療との連携をお話しし、ご家族様の納得が得られよう努めている。	原則看取りまでは行わない方針であり、入居時に説明したうえで理解していただいている。一つの目安として食事の経口摂取が出来るかどうかがある。本人家族の希望があり、協力が得られる場合はリスクを説明したうえで出来る限りの支援を行う。必要時には24時間対応出来る医師や訪問看護との連携体制をとることが出来る。	

R4.12自己・外部評価票(グループホームほのぼの)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防所からの心肺蘇生の講習の案内があった際は、参加するよう努めている。コロナ感染拡大の状況をみながら、職員全員が学べる機会を設けたらと思っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	主に夜間想定避難訓練を行っている。訓練を実際に行う職員の人数が限られているので、訓練時は全職員が参加し、誘導方法や消防署からのアドバイスを聞けるよう努めている。水害に関しては、水害被害が少ない地域でもあるが、インターネットで近隣の情報を得る方法、誘導方法、必要物品などは、全職員で学んでいる。	年2回訓練を実施し、直近の10月の訓練時には消防署に立ち会ってもらった。数年前には自治会長に訓練に参加してもらっていたがこしばらくはない。食料品、水、カセットコンロなどの備蓄物が入居者に対して3日分程度備えられている。	近隣にある他事業所との協力体制の構築は検討されても良いのではないだろうか。また、家族に対して訓練の案内を行ったり、行事や運営推進会議などと合わせた開催などがなされるのも検討されたい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	月1のミーティングの際に、不備な点があれば声掛けの方法や支援について検討するようにしている。	職員の自己学習によって今年度は接遇についての研修、資料回覧を行った。家族のように接しながらも敬意を払い、きつい言い方にならないよう、語尾をあげて優しい物言いになるよう常にミーティングで注意しあっている。スピーチロックについては特に留意する。入居時に写真等を含めた個人情報の同意を書面で頂き、同意を頂けた方だけに利用をとどめている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様より要望があった際は、応えられる部分は実現できるよう心掛けています。外へ出たい要望があった際は、散歩へ出かけたり、困難な際後日出かける機会をつくるなどの対応をしています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の過ごしたいペースを把握し尊重できるよう心掛けています。その際に孤立されるケースの際は配慮し個別にコミュニケーションをとるよう支援に努めている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をされたり、自身で身だしなみが整えることが困難な方に関しては、衣類、整髪剤の乱れ等の支援を行い気持ちよく過ごして頂く環境に努めている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	茶碗拭きができる方にはお願いし一緒に取り組むよう支援している。食事に関しては、一人一人の食事形態を考慮し食欲が低下しないよう努めている。又、希望があった際に食事で希望に添えない際は、おやつや行事で提供できるよう配慮している。	メニューと食材は業者による配達があり、調理専任の職員により昼夕の調理を内部で行っている。朝は夜勤者が行う。パン食の希望があったが、主食では難しいためおやつでの提供とした。コロナ前は調理レクとして皆でイベントとしての取り組みがあった。外食も難しいため、食事の楽しみの一つとして事業所内でバイキング形式で食事をすることもある。職員も希望があれば同じものを食べることが出来る。	コロナの状況次第だが外食や調理レク、移動販売など食事が楽しめるような取組の再開、チャレンジにも期待したい。

R4.12自己・外部評価票(グループホームほのぼの)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の量は、アイパットに記載し、全職員で把握できるよう努めている。又、その際に不足している方に関しては検討し、好みの飲み物を提供したり、食事摂取量が減少している方には栄養補助食品を食べ頂くよう配慮している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。ブラッシングが困難な方に関しては口腔スポンジをしようし、その方に合ったケアを提供できるよう配慮している。また、口腔内で異常がみられた際は、歯科往診に依頼し口腔内の保持に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握できるよう、アイパットに記載し、間隔の把握に努め排尿訴えが乏しい方でもトイレでの排泄が可能な限りトイレでの排泄ができるよう努めている。また、排泄間隔が掴めた方に関しては、布パンツで過ごして頂くような支援に努めている。	記録をクラウドに切り替えたが、以前から全員分の排泄時間、対応、水分摂取などが管理されている。電子化によって集計がしやすくなり、排便の回数を把握して薬量を調節したり、排尿回数も管理できるようになった。対象者の意向や状態によって夜間のトイレ誘導や排泄管理の方法も柔軟に対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や野菜の摂取が少なく排便困難になっている方に関しては、飲み物の工夫をし排便の促しができるよう努めている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日中のみ入浴であるが、曜日、時間を決めずにご本人様の要望が聞かれる際は、その要望に添えるよう支援を行っている。又、拒否がみられる際は強要せずに、ご本人様が入浴したい気分になるような環境をつくるよう心掛けてている。	概ね週2～3回、日中の時間帯で入浴してもらっている。掘り下げ型で手すりがあり2名でも入れるスペースのある浴室がある。入浴剤やゆず湯などの季節浴も提供している。健康管理、皮膚観察の場としても活かし、異常があれば管理者や看護師に報告している。入浴の時間をコミュニケーションの場として大事にしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の身体機能や年齢などを考慮し日中休息の時間を取り入れている。夜間も個々に合わせて部屋の明るさを調節するよう心掛けている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった際は、申し送りにて職員が把握できるようにし、アイパット内に処方箋を添付し、日頃から直ぐに確認できるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食べたい要望がある際は、ご家族に相談し購入し、塗り絵、体操、習字、音楽鑑賞など個々の能力を把握し、個別で楽しめる環境が作れるよう配慮している。		

R4.12自己・外部評価票(グループホームほのぼの)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外へ出たい希望があった際は、希望に添えるよう心掛けている。その際に困難な際は、後日可能な時に叶えられるよう努めている。遠出の希望があった際は、行事で叶えられるよう努めている。コロナ禍により御家族との外出が困難な状況ではある。	今年から徐々に外出行事も再開しており、季節の花見、お地藏さんなど、年に3、4回程度外出した。日ごろは近隣の散歩や個別での外出などを行っている。半数程度が車いす利用だが、リフトカーもあり、偏らないように外出機会を持っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方には所持してある方も居られる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望があった際は、電話を繋ぐよう支援に努め、困難な方はlineにてテレビ電話や写真、動画をご家族又はご親戚の方の送るよう配慮している。知人の方を手紙のやり取りをしてある方も居られる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の臭いには気を使い、外部からの来客の方にも不快感にならないよう居心地の良い環境が提供できるよう配慮している。室内の温度も適温に設定し快適に過ごせるよう配慮している。	2階建てのログハウスのような造りのユニットと、増築された平屋建てのユニットに分かれており、それぞれ違った趣がある。1階から2階にはエレベーターを使用しているが、趣のある階段があり家庭に近い雰囲気をも出し出している。調査時もリラックスして快適に過ごせるようアロマオイルが炊かれて良い香りが漂っていた。共有の空間は清潔感があり、定期的に換気し、温度調整を行っている。1階にはサンデッキがあり、あったかい日差しにあふれていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの席の配置については、利用者様同士のトラブルにならないよう配慮している。居室がご本人様にとって居心地が良い場合は、尊重しつつ孤立しないよう配慮している		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ご本人様が親しんだ家具や使い慣れた物を配置してある方も居られる。入居の際に持ってきて構わない事をお伝えしている。	ユニットにより居室の間取りも異なるが、木造で温かみのある部屋作りを行っている。家族の写真を飾り馴染みのある家具や道具に囲まれ安心して落ち着いた生活を送っている。観葉植物や好きな絵を飾りおしゃれなモダンな雰囲気に囲んでいる部屋もあり、本人、家族と相談しながら本人が居心地よく生活できるよう工夫している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は自由にユニット間を行き来できるよう配慮することで、狭い空間にならないよう配慮している。		